

学ぼう税、払おう税

会津若松市立第二中学校 3 年 川俣 幹裕

前年度の会津の冬は例年にも増した大雪になりました。私も両親とともに毎日のように朝も夜も雪かきをしていました。市内はどこもそうで、除雪車がなかなか来ないのです。やっと除雪車が来た時、母は手を上げて、

「やった、やっときた。待ちくたびれた。」

と声をもらしていました。僕も今年ほど除雪車に感謝したことはありません。

ではこの除雪車の費用はどこから出ているのでしょうか。もちろん税金からです。そこで僕はインターネットで除雪にかかる費用について調べてみました。会津若松市のホームページによると、二〇二四年度の除雪費用は約十二億円でした。しかし、当初の予算額は四億五千万円だったようです。つまり、雪が多すぎて当初の見積額の約三倍の税金が除雪に使われたということです。今年度もまた大雪が降ってしまったら、僕たちの冬の暮らしはどうなってしまうのでしょうか。ただ我慢と忍耐で過ごすとはいきません。しかし、除雪だけで十二億円というのは莫大な予算です。会津若松市全体の予算が圧迫されてしまいます。これは、他の自治体にも同じことが言えます。

そこで僕は、これからの冬もよりよい暮らしをするために、税金の使い方について市民が関心を持つこと、そして税金を得る方法を考えること、この二つが重要と考えました。

一年生の時、僕は税の作文を書くために、税について様々なことを調べました。消費税や所得税などの一般的な税の他にも、酒税やたばこ税、ゴルフ場利用税、入湯税、宿泊税など楽しみなどに課税されるものもありました。そこから僕は、税金を上げるためには、現代の楽しみ方に合った税を課すことがいいのではないかと考えました。例えば、徳川綱吉の頃に出された犬税を改良してペット税としたり、僕たちが毎日のように使用しているスマートフォン、タブレット税などがあってもいいと思います。私の父はカラオケに行くので、少額であればカラオケ税があってもいいかもと言っていました。また、以前市のごみ収集所の方が「資源ごみの中で、ペットボトルだけは売れて市の税金になる。」と言っていたのを思い出しました。ですから、様々なリサイクル業者に負けないように市も回収率を上げられるといいとも思いました。

しかし現状は物価高が進み、税金を払うことに対して後ろ向きになりがちです。だからこそより一層僕たちは、一市民として国や自治体などの議論を注視せねばなりません。

僕は、数年後には社会人です。成人として、納税の義務を果たさなければいけません。その自覚ある成人となるために、学業など、できることをしっかり行うこと。国会や市議会の議論に興味を持つこと。家族や友人と税に関する話題を共有することなど、今できることをやりたいと思います。そして、

「みんな、税をちゃんと学ぼうぜい、そして税をちゃんと払おうぜい。」